



No.010

能登北部地域医療研究所

のとげんだより



2012.07.25

— 医学部 6 年間の知識と技術を駆使し地域医療にあたる — 6 年生が外臨床体験実習で奥能登の在宅医療に参加！

金沢医科大学 能登北部地域医療研究所（石川県寄附講座：所長 中橋毅教授）では、金沢医科大学医学部 6 年生 7 名を受け入れ、参加型臨床実習（CCS）の指導を行った（期間：2012.7.9～13, 7.17～20）。

当研究所では、公立穴水総合病院の協力で、在宅診療の同行、診療所及び巡回診療活動の見学、介護老人保健施設「あゆみの里」での福祉介護業務等を内容とした教育プログラムを提供しており、6 年生は今までに習得した医学知識と技術を駆使し、地域医療の特徴を活かした実習を行っている。また、週の後半では、実際に指導をして頂いた公立穴水総合病院の医師や地域医療研修中の初期臨床研修医の先生方にも加わって頂き、“将来の医師像”や“へき地医療の課題と展望”について、熱く語り合い、意見交換も行った。



病棟回診前の事前確認



入浴支援介助に挑戦



島中院長と記念撮影

学外臨床実習を振り返って

①一般目標（GIO）

この学外臨床実習は医学生が自らのニーズ、個人的興味、将来の希望・進路に応じて自分に必要なカリキュラムを組む参加型の臨床実習です。本実習では、可能な限り自ら考え、かつ、行動するための時間を与えることにより、学生自身の問題解決能力および自主学習能力を向上させることを目標としています。

②行動目標（SBO）

- (1) 多様な施設での実習を体験し、将来の進路の選択に役立てる。
- (2) 自己の興味や将来の専門に応じた知識を習得する。
- (3) 各自が個性的で高度な学習能力を開発する。
- (4) 不得意な分野を補い、得意な分野を深める。
- (5) 臨床に必要な技能を身につける。
- (6) 医療チームに積極的に参加、協力する。

(G1: 2012.7.9 ~ 7.13)



MA7-0537 高橋知子 MA7-0496 菅波 泉 MA7-0563 土屋有希

■医学部6年 MA7-0537 高橋知子さん

公立穴水総合病院では、地域医療活動として訪問診療、兜診療所、巡回診療、あゆみの里の見学をさせて頂きました。穴水地区は過疎化が進む高齢化社会で、老々介護、高齢者の孤立化などが問題になっています。そのため時には自ら患者さんの元へ向かう事も求められます。地域の特色に合わせて柔軟に対応していく姿勢は医師になる身として学ぶ事は多く、これから向かえる超高齢化社会を支える上で必要不可欠だと思いました。この経験を生かし、患者さんに寄り添える医師になりたいと思います。

■医学部6年 MA7-0496 菅波泉さん

公立穴水総合病院で、実際の地域医療の現場の様子を見させて頂きました。外来、病棟、訪問診療などを通

して診療される先生の姿を見させていただいて、患者さんと先生との距離が非常に近いと感じました。患者さんと、先生方、スタッフの方とのコミュニケーションが大変素晴らしいと感じましたし、地元根付いた医療をされていることを実感しました。今回の実習を通して、地域医療におけるプライマリケア医の重要性も知ることができました。私自身、このような地域医療に興味がありますし、このような医療を通して、将来、地域に貢献できたらという思いが、一層深まりました。穴水総合病院の先生方、病院スタッフの方に、とても親切に接して頂き、大変感謝しております。有り難うございました。

■医学部6年 MA7-0563 土屋有希さん

大学生活6年間で石川県で過ごしてきた中で、穴水町を訪れるのは今回が初めてでした。公立穴水総合病院での実習を通して、地域の方と交流し医療従事者の1人として、過疎化が進む町で求められているものが何かを考えるきっかけとなりました。

訪問診療や診療所での診療見学等は貴重な体験であり、その存在によって地域の人は大きな安心感を得ていると感じました。

今後、より高齢化が進む中で医師としてできる事は何かを追求し、社会に貢献できるよう努力しようと思えます。

(G2: 2012.7.17 ~ 7.20)



■医学部6年 MA7-0628 西垣内昂子さん

4日間という短い時間でしたが穴水病院での実習を終えて、医療とはなんなのか。医療の本質について深く考えさせられました。

中橋先生がおっしゃっていた、「医療に幸福」それが強く印象に残っています。高度で最先端の医療が果たして最良の医療なのか、それが本当に患者さんにとって幸せな事なのか。医師不足が叫ばれる中、特に無医地区に住んでいる人達は、思うように満足のいく医療が受けられない状況にあります。医療の不平等をなくすためにも僻地医療は必要不可欠なのです。4日間、先生の下で患者さんを見ていたのですが、患者さんはみなさん先生の顔を見て笑顔になるのです。もちろん先生のお人柄もあると思うのですが、地域医療の重要さがそこでもよく分かりました。また、同時に僻地医療に携わることは簡単な事ではないと思いました。

少ない医師数、病院数、検査機数だからこそ、医師の本当の力量が試されるのです。普段の勉強、実習では気づけなかったことを学べた4日間でした。今、必要とされる医師の在り方を、これを機に考えていこうと思えました。

■医学部6年 MA7-0173 大蔵裕子さん

7月17日から20日までの期間、公立穴水総合病院にて学外臨床実習を行わせていただいた。今回の実習で感じたことは医療従事者と地域の方との距離が近く、地域のニーズに応えた医療を提供されている、ということだった。特に診療所という医療機関を見学させていただける機会はなかなかなく、貴重な体験をさせていただけた。

大学病院での診療とは異なる「足が痛い」「腰が痛い」などの老化による主訴がほとんどで、ヒアルロン酸や関節内注射を受けるために受診されている患者さんが多く驚いた。しかし、流れ作業的に処置を行うのではなく、その中から精査が必要かどうか判断することも重要な役割であるということも知った。また、胃ろう造設についても中橋先生から指導していただき大変考えさせられることが多かった。患者さんに実際にお会いして、カルテなどで病状を見て、改めて胃ろう造設、ターミナルケアについて自分の中で考えるきっかけとなった。地域医療に限らず、チームとして患者さんに接し、考えるこ

とでよりQOLの高い良質な医療を提供することができると感じた。

非常に多くの事を学び、体験することができた実習だった。4日間ありがとうございました。

■医学部6年 MA7-0678 野村匡晃くん

まず、はじめにこの度は公立穴水総合病院に3泊4日間、見学をさせて頂きありがとうございました。

今日、私は大きく3つの事を実習しました。1つ目は、あゆみの里実習です。あゆみの里では医学知識を踏まえて高齢者の方々とお話しすることが出来て、自身の6年間の集大成を発揮することができました。2つ目は、訪問診療実習です。訪問診療実習では患者さんの緊張がほとんどなく素直に、そして本心を訴えられていたことに感銘と驚きを受けました。私が考えていた訪問診療とは全く異なっており、よりよい診察が行える無限の可能性を秘めた医療だと感じました。3つ目は兜診療所の見学です。沢山の患者さんが受診されておられ、一見、ルーチンワークをこなすように見えたが、それは全く違って違い先生は現状維持の患者さんと精査が必要な患者さんを見極め鑑別しておられました。私は沢山の患者さんが待つ中、手際よく、効率よく診察し、重要性を先生の五感で見事に区別している姿に感動しました。

以上の3つの事を私は今回実習させていただきました。どれも新しいことばかりで私が良医になるためには必ず通り、考えなければならない事象を沢山経験出来ました。そしてはじめて足を踏み入れた穴水に関して職員の方々や先生の方々のお計らいのおかげで沢山知ることができました。3泊4日と短い期間でしたが本当にありがとうございました。

■医学部6年 MA7-0836 宮下久範くん

7月17日から20日までの間、公立穴水総合病院の方々にお世話になりました。今までの学校での実習では大きな病院にて、潤沢な医療資源、豊富な人員による医療ばかりを見学してきており、今回のこのような地方での医療にここまで携わることは初めての経験でした。病院の規模、スタッフの数等限られた環境の中でいかに多くの人の多くの要望に応えられるかという戦いを拝見することができました。地域医療では訪問診療等、大きな病院ではないこともっており、その1つ1つがとても大切な仕事でした。どのような地域でも医療を求めている人は沢山いらっしゃる、その方達のQOL、困り事を解決する為、親身になって対応し、その人の病気の事のみではなく退院後の生活にまで全て気をくばり、そこで初めてその人に合った理想の医療に近づいていけるんだという事がこの実習の期間を通して改めて思い知りました。これからの日本の近い未来の縮図であるここ穴水の高齢者の方に対する医療を学んだ経験を生かし、これからもよりよい医療を行えるよう努力していきたいと思えます。

今回は様々な事を見せ、教えて下さりありがとうございました。



〇問い合わせ（濱中・橋本・濱崎）

能登北部地域医療研究所（公立穴水総合病院内）

電話 0768-52-0655 FAX0768-52-0658

E-mail ccm@kanazawa-med.ac.jp

〒927-0027 石川県鳳珠郡穴水町川島タ-8